



今日のキーワード 『SQ』に向け日本株は波乱の展開か？

6月11日に“Special Quotation”（『SQ』）を迎えます。『SQ』とは株価指数の先物取引やオプション取引などを、決済期日で決済するための「特別清算指数」のことを指します。今回の『SQ』はボラティリティが急拡大し始めた中で迎えます。日経平均株価で構成比の高い値がさグロース銘柄の株価が不安定であることや、投資家がレンジを想定して株価変動への備えが遅れていることなどから波乱の展開となる可能性があります。

ポイント1 『SQ』時には多様なポジションを決済

『SQ』前後は高変動や相場の転換などが発生

- 6月11日に株価指数先物とオプション取引の『SQ』を迎えます。投資家は『SQ』に向けて多様なポジションの決済等の対応を迫られます。『SQ』前に何らかの要因で株価が変動した場合にポジションを一気に解消する動きが出て、株価の変動率が大きくなることや相場の転換点となることなどがあります。

ポイント2 投資家はレンジを想定 NT倍率は乱高下

- 3月の『SQ』後、日経平均株価はほぼ28,000円～31,000円のレンジとなったため、投資家はオプションの建玉などからみてもレンジを抜けた場合の備えが進んでいないと思われます。特に下限を抜けた場合、一気にヘッジの動きが出て変動が大きくなる可能性があります。
- 日経平均株価を東証株価指数（TOPIX）で割ったNT倍率は2月25日には15.66倍まで拡大、その後乱高下しています。これは日経平均株価が構成比率の高いファーストリテイリングなどグロース色の強い16銘柄で構成比率が50%を上回るなど、異例な状況にある中、グロース株が高値警戒感などから乱高下しているためです。

今後の展開 『SQ』に向け波乱の展開か？

- 今回の『SQ』にむけて、グロース株が売られ、相場が下落する過程で先物などによるヘッジ売りが加速した場合、日経平均株価はボラティリティが急拡大して波乱の展開の可能性もあります。ただネット裁定残高が5月17日時点で▲1.45億株であることからみて、ショートポジションはなお高水準にあると想定されることなどから大きな変動となっても一時的な動きとみられます。

※個別銘柄に言及していますが、当該銘柄を推奨するものではありません。

ここも
チェック！ 2021年4月16日 日銀の政策変更などを受け、日本株の『NT倍率』は？
2021年3月 5日 『SQ』に向け日本株は波乱含み？

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。

【日経平均株価とNT倍率】



【日経平均株価とネット裁定残高】

